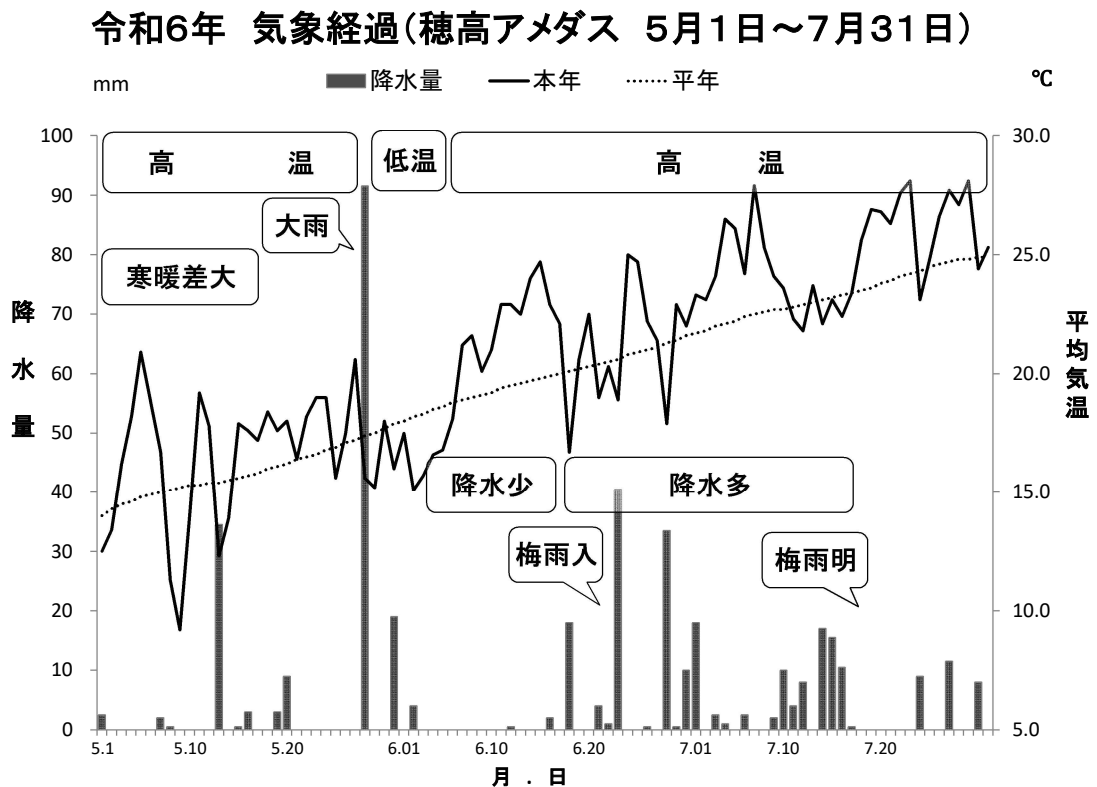


令和6年 作物技術普及情報 第15号

(水稲の生育状況、生育予測・刈り取り開始予測他について)

1 気象状況



梅雨明け後は高温となっています。降雨はありますが干ばつ傾向な地区もあります。

8月1日発表の1か月予報では、平年より高い（特に期間の前半）と予想されています。また、同日発表の高温に関する早期天候情報では、関東甲信地方は8月7日頃から「かなりの高温」になると見込まれています。

2 水稻の生育状況（8月1日現在）について

- 定点圃場の「あきたこまち」の出穂期は7月21日で、平年より7日早でした。「コシヒカリ」の出穂期は8月1日で、平年より7日早でした。これは定点圃場で出穂が最も早かった令和4年と同じで、定点圃場の調査が始まって以来、最も早い出穂期です。

生育は平年より7日程度進んでいると思われます。出穂が早まっているため、成熟期も平年よりかなり早まる(昨年並み)ことが予想されます。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合									
コシヒカリ		幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期	あきたこまち		幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期
稚苗		の実測日	の実測日	の実測日	稚苗		の実測日	の実測日	の実測日
本年		7月11日	7月18日	8月1日	本年		7月2日	7月9日	7月21日
平年		7月16日	7月23日	8月8日	平年		7月6日	7月13日	7月28日
平年差	7日早				平年差	7日早			

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

支援センターの巡回では現地の生育状況は以下の通りです。
幼穂形成期以降がかなり高温だったためか、全体的に出穂始めから穂揃いまでの日数が長く、平年より穂揃いが悪い模様です。

8月1日現在の現地（平坦地）の生育状況

- ・ 早生品種（あきたこまち、美山錦等）
： 登熟初期
- ・ コシヒカリ
 - 4月末～5月初旬植： 傾穂期 ～ 登熟初期
 - 5月上旬植： 穂揃い期 ～ 傾穂期
 - 5月中旬植： 出穂期 ～ 穂揃い期
 - 5月下旬植： 出穂始め ～ 出穂直前

3 水稻の刈り始め予測（8月1日現在）

今後も高温が続き、成熟期がかなり早まることが予想されるため、刈り始め開始予測は【平年より2℃高温版】を提供いたします。
（今後低温傾向になった場合は、平年並み版も提供いたします）。

2℃高温版を利用いただき、施設の稼働計画や収穫計画にご活用ください。

5月15日植 標高540m の刈り取り開始～成熟期予測(8月1日現在)

品 種 及 び 苗 質		刈り取り開始		成熟期		
		登熟期間の気温		登熟期間の気温		
		平年並	平年より 2℃高	平年並	平年より 2℃高	平 年
あきたこまち	稚 苗	8月26日	8月23日	8月31日	8月28日	9月7日
	中 苗	8月24日	8月20日	8月29日	8月25日	—
コシヒカリ	稚 苗	9月9日	9月4日	9月14日	9月9日	9月22日
	中 苗	9月4日	8月30日	9月9日	9月4日	—

※下表は8月1日現在の松本～塩尻方面の水田の コシヒカリ（稚苗植）の水稻刈り始め予測（2℃高温版）です。

	標高	推定出穂期						刈り始め予測日（出穂期以降 平年より2℃高く推移した場合）						標高
		田 植 日						田 植 日						
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	
コシヒカリ 稚苗	750m	8月2日	8月4日	8月6日	8月8日	8月11日	8月14日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日	9月19日	9月23日	750m
	700m	7月31日	8月2日	8月4日	8月6日	8月9日	8月12日	9月4日	9月7日	9月9日	9月12日	9月15日	9月19日	700m
	650m	7月30日	8月1日	8月2日	8月5日	8月8日	8月11日	9月3日	9月5日	9月6日	9月10日	9月14日	9月17日	650m
	600m	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日	8月6日	8月9日	8月31日	9月2日	9月4日	9月7日	9月10日	9月14日	600m
	550m	7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月4日	8月7日	8月28日	8月30日	9月2日	9月4日	9月7日	9月11日	550m

安曇野～筑北方面の水田や他の品種・苗質・標高・田植日については、松本農業農村支援センター 技術経営普及課のホームページに掲載した「水稻刈り始め予測（2℃高温版）8月1日現在」をご覧ください

水稻刈り始め予測は松本農業農村支援センター技術経営係のホームページで随時更新していますので、最新版をご利用下さい

4 高温障害対策（出穂後のポイント）について

① 【出穂後3週間は湛水】

高温登熟による胴割米、白未熟米の発生防止のため、出穂後3週間は圃場の水を切らさない状態（少なくとも圃場にひたひた水がある状態）を保ってください。

著しい高温が続く場合、用水が十分あり、冷水による生育遅れの心配がない場合は、掛け流し（昼間～夕方の4時間程度）や昼間入水等により、水温が高くなった田面水の入れ換えもご検討ください。

② 【早期落水は避ける】

十分な中干しが出来なかった場合、早く落水して土を固めたい・・と思う場面があるかと思いますが、早期落水は、胴割米・白未熟米の発生を助長します。

今年の水稲は胴割れや白未熟の発生しやすい体質になっているので早期落水は避けて下さい。

土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします。特に松本管内の土壤（砂壤土）は乾きすぎるので注意してください。

5 水稲の病害虫の発生状況について

（1）いもち病

7月中旬までは発生好適条件がありましたが、その後の高温で発生は抑えられています。しかし今後曇りや雨の日が続いた場合穂いもち（特に枝梗いもち）対して注意が必要です。令和3～4年のようにお盆以降に降雨が続く場合はご注意ください。

（2）斑点米カメムシ類

7月31日付で病害虫防除所から、南信及び中信地区に対して斑点米カメムシ類に関する地区注意報が発表されています。

管内では、山麓に近い圃場でやや大型のホソハリカメムシの発生が平年より多い模様です。

コシヒカリは防除適期なので、技術情報14号をご覧ください、防除の徹底をお願いします。

6 大豆の生育状況と干ばつ対策について

大麦後大豆は概ね9～7葉、小麦後大豆は概ね5葉～2葉期です。

7月上～中旬の降雨により、葉の黄化や生育抑制などの湿害を受けた圃場も目立ちますが、生育は回復傾向です。また降雨による播種遅れの影響で生育量のかなり少ない圃場も目立ちます。

現在高温で干ばつ気味になっており、干ばつによる生育障害の恐れが高くなっています。特に湿害を受けた圃場は、干ばつ害を受けやすいので注意が必要です。

これから干ばつの影響を受けやすい開花期を迎えます。令和元年や令和5年の著しい干ばつ被害（圃場全体の落葉・株枯れによる低収・小粒化）を思い出していただき、葉のしおれに注意して、入水可能な圃場では灌水を実施するようにお願いします。

灌水による干ばつ害の軽減効果

（灰色低地土 播種時期6月下旬 開花最盛期の圃場 撮影：令和4年8月15日）



【 灌水のポイント 】

- ・ 灌水は、圃場の一部で上位葉の反転が始まったら行う。
- ・ 灌水は、葉数が4～5葉以上に生育した圃場で行う（生育量が不十分な場合は湿害のおそれがあるので、生育が進んでからかん水する）。
- ・ 灌水は、用水が十分にあり、茎疫病等の立枯れ性病害が発生していない圃場で行う。
- ・ 灌水にあたっては、ほ場周囲の額縁明渠や補助明渠、大豆の畦間等を活用し、水が速やかに圃場に行きわたるように行う。
- ・ 圃場全体が滞水するような灌水をすると、茎疫病の発生を助長することがあるので、圃場の3分の2程度に水がついたら、水を止め、滞水しないようにする。
- ・ 灌水は、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水する。

今後の天候によっては、まとまった雨が期待できない状況になることも予想されます。

その場合は、葉がしおれていなくても、水分ストレス回避や落莢防止のため、積極的な灌水をご検討下さい。